

全損保「外資のたたかい解決報告集会」での発言

色々な人の支援を受けて頑張れば勝てると自信が生まれた

全損保ニューインディア分会 浅岡博之さん

私は去年雇止めと言われた時、会社に「私を辞めさせると会社の仕事が停滞しますよ」と警告したのですが、辞めさせられました。そこからたたかいが始まり、サマジャン（全損保の第42回サマージャンボリー）に参加して訴えました。皆さんに「大変だ」と受け止めていただき、私のことを親身に応援してくれて驚きました。その後、ゼネラリの日本支店閉鎖問題が起こり、全損保ゼネラリー分会が立ち上がりました。それも驚きで、労働組合はこうやってできるのかと思いました。

その後支援カンパが集まり、安心感が広がりました。各支部の支部大会に参加させていただき皆さんから声をかけていただき、とてもありがたかったです。また全損保の本部オルグに参加させていただき全国を回りました。これもとてもありがたかったです。オルグの間にニューインディアの職場、営業所を全部回ることもできました。全部回って、やはり私がいないと職場は困るのだなと感じ、これならこの裁判は勝てるという思いを持ちました。

私は、辞めるときに「パソコンをそのままにしておいてくれ」と同僚に頼みました。「必ず戻ってくるからそのままにしておいて」と言ったのですが、実際にそうになりました。

皆さんに支援していただき、自分でも一生懸命やればこういう結果になると自信ができました。色々な人の支援があって、一生懸命頑張ればこういう結果になると自信を持つことができました。最後に付け加えますが、私を首にした支配人が団体交渉で、間もなく日本からいなくなると自分で言っていました。これで問題は一区切りつくと感じています。この一年、大変な一年でしたが非常に有意義で、いろいろな人の心を感じることができた一年でした。

たくさんの支援が労働委員会を動かし私たちの心を動かしました

全損保ゼネラリー分会 内野委員長

ゼネラリー日本支店には、労働組合が無く、労働組合の経験者もおらず、自分たちが何をしていたかわからない中で始まったたたかいでした。当初は、団体交渉を行えば何とかできるのではないかと漠然とした思いがありましたが、会社の代表は従業員のことを全く考えない、想像を超えた人物でした。そのため、発表のあった7月、その後9月、12月と退職せざるを得ない人が出てくる中でたたかいでした。全損保中執の皆さんが毎回かけていただいた団体交渉では事態が全く進まず、会社代表は解決する気がないのが明らかでした。

東京都労働委員会にたたかいの場を移し、会社のやり方がいかに不当であるかが三者委員の目にも明らかになりました。調査日には毎回50以上の方に傍聴参加いただいたことが、公益委員の心を動かし、私たちの心も動かされました。私たちの分会は18名で、途中で辞めていかなければならない人も出ましたが、皆さんの支援を受けてたたかう中で、全損保の思いが分会の組合員のものとなったことをご報告できます。この後、ゼネラリーが日本から撤退した後、分会のメンバーは全損保のある職場に仕事を見つけることができなくても、何らかの形で全損保を支援していきたいと思うようになっていきます。これは、私たちのたたかいで得られた大きな成果だと思っています。残った期間は長くありませんが、会社の今後の動きを注視して全損保の分会として従業員の処遇を守っていきます。